

例年参加している「台東区POPコンテスト」応募作品302点、受賞15点の中に本校から4人が選ばれました。A棟からは図書委員が応募しました。作品は1階多目的ホール並びの掲示板で紹介しています。力作ぞろいですのでぜひご覧ください。紹介している本はほとんど図書館にあります。みなさんの読書活動の成果が、さらに多くの白鷗生の読書のきっかけになれば嬉しいです。受賞作品と本選まで残った37作品は台東区中央図書館グリーンコーナーに随時展示されるそうです。



POPと本、A棟受賞者の作品をA棟図書館入口に展示します。

最優秀賞 「ブロード街の12日間」 デボラ・ホプキンソン/著

館長賞 「本を守ろうとする猫の話」 夏川草介/著

奨励賞 「試着室で思い出したら、本気の恋だと思う。」

尾形真理子 /著

奨励賞 「ときのそら」 兎月竜之介/著 (B棟)

今月の新着図書Pickup！

『見えないから、気づく』 浅川智恵子

坂本志歩/聞き手 ハヤカワ新書

著者は14歳の時に失明し、「ホームページ・リーダー」など視覚障害者を支援する数々のアクセシビリティ技術を開発、日本人女性初の全米発明家殿堂入りして、現在、日本科学未来館館長とIBMフェローを務めています。視覚障害を強みに、研究者と同時にユーザーとして組織やさまざまな人々、テクノロジーとの出会いを得て開発をする過程や研究・仕事・家庭の「三足のわらじ」で博士号を取得、アメリカの大学で研究するなど、著者の人生には感動を覚えます。この本では「障害×テクノロジーが世界を動かす」「誰も取り残さない」など考えさせられ、多くのことを知ることができます。

『ぼくが生きてる、ふたつの世界』 五十嵐大

幻冬舎文庫

本書は2021年刊『ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を行き来して考えた30のこと』の文庫化です。耳の聴こえない、聴こえにくい親に育てられた聴こえる子ども、CODA（コーダ）である著者が『知ってもらいたい』という一心でずっと目を背けていた過去と向き合い懸命に綴る（文庫本あとがき）そんなに自分を責めないで、と読むのが辛い部分もあります。でも、それを経たからこそ書けたのだと思います。書影は映画化のものです。その下の表紙はろうの写真家である齋藤陽道さんの作品、「子どもの頃のぼくがそこにいる！」と著者が興奮した写真もご覧ください。今年8月刊『『コーダ』のぼくが見る世界 聴こえない親のもとにうまれて』く369イも所蔵しています。その後の彼の軌跡を知ることができます。



冬休み貸出：12日～

冊数：8冊まで

返却期限：1月8日(水)

冬休み中、図書館は休館。

新着速報版を入口前に掲示します！

